

展覧会の詳細決定！

藤田の自画像や作戦記録画等、二人の画家の代表作が多数出品

ふじた つぐはる くによし やすお

特別展 「藤田嗣治×国吉康雄：

二人のパラレル・キャリア一百年目の再会」開催

The Parallel Careers of Foujita and Yasuo Kuniyoshi: A Centennial Reunion

2025年6月14日（土）～8月17日（日）/兵庫県立美術館

兵庫県立美術館は、20世紀前半の海外で成功と挫折を経験した二人の画家、藤田嗣治（1886-1968）と国吉康雄（1889-1953）が、ともにフランス・パリに滞在した1925年から100年目になることを機にした特別展「藤田嗣治×国吉康雄：二人のパラレル・キャリア一百年目の再会」を、**2025年6月14日（土）～8月17日（日）の会期で開催**いたします。巡回なし、兵庫県立美術館のみの展覧会です。

今回、展覧会の詳細が決まりましたので、お知らせいたします。第1章～第9章まで全9章での構成となり、**藤田嗣治の《自画像》や、作戦記録画《ソロモン海域に於ける米兵の末路》など、東京国立近代美術館からの出品も正式に決まりました。油彩画を中心に約120点、直筆の書簡などの資料も多数出品予定です。**

ぜひ、貴媒体でご紹介ください。

藤田嗣治は、東京美術学校卒業後26歳で単身フランスに渡り、1920年代、「素晴らしい乳白色の下地」と称賛された独自の画風によって、エコール・ド・パリの寵児としてフランスでの名声を確立します。国吉康雄は16歳で渡米、画才を認められて研鑽を積み、アメリカ具象絵画を代表する画家としての地位を築きました。パリとニューヨークで活躍した二人の画家は、1925年と28年のパリ、1930年のニューヨークで接点を持ちますが、太平洋戦争によりその関係性が破綻します。終戦後、1949年の10ヶ月を藤田はニューヨークで過ごしますが、現地にいた国吉との再会は叶いませんでした。日本とフランス、日本とアメリカ、二つの祖国を持った二人が、それぞれどのような自覚と視座のもと作品を生み出していったのか、通時的かつ共時に作品を対比させてご紹介します。概要は以下のとおりです。

2025年3月時点での予定であり、今後、変更が生じる場合があります

権利上の都合で画像は削除しています

— みどころ —

1. 藤田嗣治、国吉康雄の本格的な二人展は、国内外の美術館で初めての試み

2. 同時代を生きた二人の巨匠。9章立てで作品が対面し、共鳴する

藤田はフランス、国吉はアメリカで日本人「移住者」の画家として歩み始め、1925年と28年のパリ、1930年と49年のニューヨークで接点を持ちながら、平行した人生を送りました。本展では、母国への一時帰国や日米開戦下の制作、さらに、戦後の藤田のフランス永住と国吉の死までを扱う全9章によって二人の作品を対比させながら、時系列に紹介します。

3. 藤田嗣治と国吉康雄の代表作が神戸に集結！

1975年に兵庫県立美術館の前身である兵庫県立近代美術館で別々に個展を開催して以来、二人の作品をまとめて紹介するのは神戸では50年ぶりとなります。国内主要コレクションから代表作が一堂に会する本展は、それぞれの個展としてもお楽しみいただける、充実した内容となっています。

4. 藤田の1920年代の大作2点が、本格的な修復後、初めて同じ会場で出品

- ・《五人の裸婦》（1923年、東京国立近代美術館蔵）
- ・《舞踏会の前》（1925年、大原美術館蔵）

5. 巡回なし！兵庫県立美術館のみの単独開催

本展は他館への巡回のない、神戸でのみ実現する特別展です。

6. 戦後80年にあたる2025年、戦争に翻弄された二人の軌跡を辿る

当時、まだ日本で知名度の低かった国吉を日本画壇へ紹介するため、藤田は1931年に画家の有島生馬（1882-1974）に手紙を送っています。しかしその後、日米が開戦すると、日本で「作戦記録画」を担った藤田と、アメリカで民主主義を信じて制作を続けた国吉は、それぞれ全く異なる道を進みます。1949年に藤田はニューヨークに1年弱滞在しますが、二人が再会することはありませんでした。

— 略歴 —

藤田嗣治（ふじた つぐはる）1886-1968

権利上の都合で
画像は削除しています

1886年東京府生まれ。画家を志し、1905年東京美術学校西洋画科に入学。1913年に単身渡仏。1919年のサロン・ドートンヌで全点が入選を果たし、会員に選出される。1921年に発表した裸婦像の「素晴らしい乳白色の下地」が称賛を集め。以後、エコール・ド・パリの寵児として知られる。1929年に日本に一時帰国後、中南米滞在を経て1933年から再び日本で暮らした。翌年に二科会員となり、中南米や日本の風土を題材とした絵画や壁画を手がけた。1939年に再渡仏するが、第二次世界大戦の戦況悪化のため翌1940年に帰国し、戦時中には「作戦記録画」を制作した。戦後、1949年に渡米、翌年フランスに帰還し、永住を決意する。1955年にフランス国籍を取得。1959年にはカトリックの洗礼を受け、1968年に死去。

国吉康雄（くによし やすお）1889-1953

1889年岡山市生まれ。1906年に労働移民として単身渡米。学校の教師に勧められ美術の道に進む。1916年からニューヨークのアート・スクールで学んだことが転機となり、初期作は東洋的画題と西洋的技法の融合した独自の表現として評価を受けた。友人で画家のバスキンの勧めで1925年と28年に2度渡仏。「ユニバーサル・ワーマン」と呼ばれる女性像を描き人気を博す。1931年に母国に一時帰国し、個展を開催。同年に二科会員となり、翌1932年に二科会へ出品。1941年の太平洋戦争勃発後、日米間の対立に苦悩する心中が投影された作品を描いた。1948年にホイットニー美術館で現存作家初の個展を開催し、1952年にヴェネツィア・ビエンナーレアメリカ代表に選出。アメリカ市民権を申請中の1953年に死去。

権利上の都合で
画像は削除しています

1910年代後半から20年代初頭： 日本人「移住者」としてのはじまり

1906年、16歳で労働移民として渡米した国吉は、教師の勧めで画家を志し、ニューヨークのアート・スチューデンツ・リーグで研鑽を積みます。東京美術学校卒業後の藤田は1913年、26歳で渡仏。第一次大戦下も欧州にとどまり、戦後、パリの諸サロンで入選を重ねます。

権利上の都合で画像は削除しています

1922年から24年：異国での成功

乳白色の下地による裸婦のスタイルを確立した藤田は、20年代前半のパリの諸サロンに代表作《五人の裸婦》などを発表します。ニューヨークの国吉は1922年からダニエル画廊で毎年個展を開き、複数の展覧会に参加を続け、東洋的と評された作風で注目を集めました。

権利上の都合で画像は削除しています

1925年と1928年：藤田のパリ絶頂期と国吉の渡欧

今から100年前の1925年、パリではアール・デコ博覧会が開かれ、日本から多くの視察がありました。国吉は1925年と28年に当時の妻で画家のキャサリン・シュミットとパリに滞在します。ブルガリア出身で、NYとパリを往来するジユル・パスキンは藤田、国吉の共通の親しい友人でした。

権利上の都合で画像は削除しています

1929/1930/1931年： ニューヨークでの交流とそれぞれの日本帰国

藤田は1929年に初めて母国に一時帰国を果たしました。いったんパリに戻り、1930年秋、ニューヨークでの個展のために藤田は渡米します。ここでふたりは直接交流する機会を得ました。その後、藤田からの紹介状を手に、1931年、国吉は24年ぶりに母国に向かいます。

権利上の都合で画像は削除しています

1930年代：軍国主義化する母国の内外で

30年代初頭にパリを離れ、中南米経由で33年秋に母国に戻って定住した藤田はフランス、日本・アジアの風俗など新たな画題に取り組みました。国吉は順調な制作を続け、受賞を重ねました。母校で教職につき、さらに芸術家権利向上・団結を目指す活動にも力を注ぎます。

権利上の都合で画像は削除しています

1941年から45年：日米開戦下の、運命の二人

1941年12月8日の日米開戦が、親しかった在外邦人画家の運命を別（わか）ちます。藤田は母国で、軍部からの作戦記録画の注文に力を注ぎます。国吉のアメリカでの立場は敵性外国人となり、行動制限を受けるなか、軍国主義を批判する活動や制作に取り組みました。

権利上の都合で画像は削除しています

1946年から48年：戦後の再生と異夢

戦後、藤田は「戦争責任」をささやかれるなか、裸婦や幻想的な情景の制作を再開しつつ、フランス帰還の可能性を模索します。国吉は制作と美術家組合の活動に邁進。1948年ホイットニー美術館で個展の開催を迎えます。同館では初の現存作家の個展という栄誉でした。

権利上の都合で画像は削除しています

1949年ニューヨーク：すれ違う二人

藤田は1949年3月、離日・渡米を果たし、ニューヨークに約10か月滞在。現地では恵まれた画材や美術館の西欧名画と再会し、11月にはマシアス・コモール画廊で個展を実現します。国吉は藤田不在の個展会場に足を運びましたが、この間、二人の再会はありません。

権利上の都合で画像は削除しています

1950年から53年：藤田のフランス永住と国吉の死

1950年秋に体調を崩した国吉は、移民法改定を受けアメリカ国籍取得の手続き途上の1953年5月に亡くなりました。1950年初にパリに帰還し、55年にフランス国籍を取得して日本国籍を手放した藤田は、晩年カトリックに改宗。1968年に没し、欧州の土に還ります。

権利上の都合で画像は削除しています



◆展覧会ロゴマーク◆

展覧会ロゴマークが以下に決定いたしました。
広報用画像としても貸し出しますので、ぜひご活用ください。

貸出画像①-1



貸出画像②-2



開催概要

展覧会名：藤田嗣治×国吉康雄：二人のパラレル・キャリア一百年目の再会

会期：2025年6月14日（土）～8月17日（日）【56日間】

開館時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

休館日：月曜日（7月21日、8月11日は開館し、7月22日、8月12日が休館）

会場：兵庫県立美術館

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1【HAT神戸内】

主催：兵庫県立美術館、毎日新聞社、MBSテレビ、神戸新聞社、

「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト実行委員会、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

協賛：公益財団法人伊藤文化財団、DNP大日本印刷、大和ハウス工業、公益財団法人日本教育公務員
弘済会 兵庫支部、一般財団法人みなど銀行文化振興財団

特別協力：公益財団法人福武財団

企画協力：株式会社キュレイターズ

協力：岡山県立美術館、岡山大学学術研究院教育学域《国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座》

後援：NHK神戸放送局、ラジオ関西

助成：一般社団法人安藤忠雄文化財団、公益財団法人力メイ社会教育振興財団、

公益財団法人戸部眞紀財団

観覧料：

	当日	団体	前売
一般	2,000円	1,600円	1,800円
大学生	1,200円	1,000円	1,000円
高校生以下	無料	—	—
70歳以上	1,000円	800円	—
障害者手帳等をお持ちの方（一般）	500円	400円	—
障害者手帳等をお持ちの方（大学生）	300円	250円	—

チケット販売場所：公式オンラインチケット、アソビュー！、ローソンチケット（Lコード：52603）、
セブンチケット（セブンコード：109-470）、チケットぴあ（Pコード：687-187）、
イープラス、CNプレイガイド、楽天チケット、兵庫県立美術館ミュージアムショップほか
※前売券販売期間：4月11日（金）10:00から6月13日（金）23:59まで
※一般以外の料金でご利用される方は証明書を観覧当日ご提示ください
※障害者手帳等をお持ちの方1名につき、介助者1名無料
※コレクション展は別途観覧料が必要です
（本展とあわせて観覧される場合は割引があります）
※団体は20名以上。団体鑑賞をご希望の場合は1か月前までにご連絡ください

お得なペア割チケット「藤田×国吉 パラレルチケット」 3,200円（税込）

※2枚一組。1名で2枚利用也可。

販売期間：4月11日（金）10:00～6月13日（金）23:59

販売場所：公式オンラインチケット、アソビュー！、ローソンチケット、セブンチケット、イープラス

《報道関係者お問い合わせ先》

「藤田嗣治×国吉康雄」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：fk2025@tm-office.co.jp

▼広報用画像について

以下の【1】～【17】を広報用画像として貸出いたします。画像はリリースをご確認ください。

なお、藤田嗣治作品は著作権存続作品です。次ページの注意事項を必ずご確認いただき申請をお願いいたします。

申込フォーム：<https://forms.gle/9uGZWK7SpHwfSnPL6>



◆広報用画像キャプション一覧

No	キャプション	クレジット（紙媒体）
		クレジット（WEB媒体）
1	中山岩太 《ポートレイト（藤田嗣治）》 1926-27年 中山岩太の会蔵	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
2	Max Yavno 《「逆さのテーブルとマスク」を制作中の国吉康雄》 1940年頃 福武コレクション	
3	国吉康雄 《夢》 1922年 石橋財団アーティゾン美術館	
4	藤田嗣治 《タピスリーの裸婦》 1923年 京都国立近代美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0351
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0359
5	国吉康雄 《幸福の島》 1924年 東京都現代美術館	
6	藤田嗣治 《舞踏会の前》 1925年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0353
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0359
7	藤田嗣治 《自画像》 1929年 東京国立近代美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
8	国吉康雄 《サーカスの女玉乗り》 1930年 個人蔵	
9	藤田嗣治 《猫のいる静物》 1939-40年 石橋財団アーティゾン美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0330
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0359
10	国吉康雄 《逆さのテーブルとマスク》 1940年 福武コレクション	
11	藤田嗣治 《ソロモン海域に於ける米兵の末路》 1943年 東京国立近代美術館 (アメリカ合衆国より無期限貸与)	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
12	国吉康雄 《誰かが私のポスターを破った》 1943年 個人蔵	
13	藤田嗣治 《美しいスペイン女》 1949年 豊田市美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
14	国吉康雄 《カーニヴァル》 1949年 個人蔵	
15	藤田嗣治 《二人の祈り》 1952年 名古屋市美術館	© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
		© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E5974
16	国吉康雄 《ミスターEース》 1952年 福武コレクション	
17-1	展覧会ロゴ（顔入り） ※キャプション不要	
17-2	展覧会ロゴ（顔なし） ※キャプション不要	

兵庫県立美術館「藤田嗣治×国吉康雄：二人のパラレル・キャリアー百年目の再会」

【広報用画像貸出に関する注意事項】

＜広報用画像、取扱いに関するお願い＞

- ◆画像は本展をご紹介いただく場合のみ使用可能です。本展終了後は使用できません。
ただし、本展レビュー記事においては、この限りではありません。
- ◆画像をご使用いただく際は、＜展覧会名・会期・会場・指定のキャプション、クレジット＞を必ず表記ください。
- ◆必ず全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字載せは禁止となっております。
- ◆再放送、転載などの二次使用をされる場合は、広報事務局まで別途申請ください。
- ◆基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までメールまたはFAXにてお送りください。
- ◆ご掲載・放送後、お手数ですが掲載紙（誌）または同録を広報事務局までお送りください。
- ◆本展覧会終了後、画像データの破棄をお願いします。

＜藤田嗣治作品の著作権の取り扱いについて＞

ご紹介にあたり、広報用画像貸出申請書に記載のある藤田嗣治の作品画像については著作権上、下記条件の遵守をお願いいたします。

■紙媒体

①告知・紹介記事の場合

- ・展覧会の紹介テキスト（会期会場などの展覧会概要と画像クレジットを除く）は400文字以内。
- ・広報用画像は2点まで使用可。掲載サイズが50平方cm以下であること。

②特集記事の場合

- ・著作権料が発生します。特集記事を掲載いただける場合は広報事務局までご相談ください。
- ・文字数の制限はありません。広報用画像の中からお選びいただき、原稿・ゲラ刷りの段階で広報事務局までお送りください。

■WEB媒体

①・広報用画像は1点のみ使用とし、必ずコピーガードを施してください。文字数の制限はありません。

・コピーガードができない場合は、72dpi以下、または400×400ピクセル以下の解像度で掲載ください。

②特集記事の場合

- ・特集用など2点以上の広報用画像の使用をご希望の場合は著作権料が発生します。広報事務局にご相談ください。

③展覧会終了後（8月18日）、画像の公開終了をお願いします。

※国吉康雄作品については、点数・サイズの制限はありません。

《報道関係者お問い合わせ先》

「藤田嗣治×国吉康雄」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：fk2025@tm-office.co.jp

【広報用画像貸出申込書】

展覧会会期：2025年6月14日（土）～8月17日（日）

広報用画像貸出の申請は、下記申込フォームよりお送りください。

申込フォーム：<https://forms.gle/9uGZWK7SpHwfSnPL6>◀申込フォーム
二次元コード

フォームでの入力が難しい場合、FAXかメールでもお申込みいただけます。
以下の項目を記入いただき、ご返信ください。

FAX：050-1722-9032 E-MAIL：fk2025@tm-office.co.jp

貸出画像希望番号						
貴社名						
媒体名						
媒体種別	※いづれかに○印をつけてください。 新聞 テレビ WEB 雑誌 フリーぺーぺー 会員誌 ラジオ その他 ())					
WEBの場合 サイトURL						
掲載・放送予定日	月 日					
担当者名						
TEL/FAX	TEL	FAX				
E-mailアドレス						
読者プレゼント招待券 <input type="checkbox"/> 希望する (組名) ※最大2組4名 招待券の送付先 ご住所 〒 -						
<input type="checkbox"/> 応募宛先を広報事務局とする ※応募宛先は、以下の通りです。 〒541-0046 大阪市中央区平野町4-7-7-8階 TMオフィス内 「藤田嗣治×国吉康雄」 (媒体名) 係						

《報道関係者お問い合わせ先》

「藤田嗣治×国吉康雄」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：fk2025@tm-office.co.jp